



信用金庫の歴史

信用金庫の起源は、鎌倉時代に始まり室町時代に広まった「無尽講」や「頼母子講」にさかのぼります。それらは、お金や穀物を出し合い融通しあう「相互扶助」の精神に基づいたものでした。以降、このような相互扶助による金融が人々の間で欠かせないものとなっていきます。

明治維新を契機として大企業家への資本の集中が激化し、農民や中小商工業者は資金の調達に苦慮することになりました。これを解消するため、明治25年に日本で最初の信用組合が設立されます。こうしたことを背景に、明治33年「産業組合法」が制定され、信用金庫(当時は信用組合)の歴史が始まったのです。

そして戦後となり、昭和26年、「信用金庫法」が制定され、現在の「信用金庫」が誕生したのでした。

信用金庫の特徴

信用金庫は協同組織(会員制度)の形をとっており、「相互扶助」の精神から生まれた組織であること、限定された営業地域で活動する金融機関であること、中小零細企業と個人のお客さま専門の金融機関であることという3つの大きな特徴があります。地域の中で預金として集めた資金はその地域のお客さまに融資として還元され、地域経済の原動力となります。

「地域の人々の幸福・成長および地域経済の発展・繁栄に貢献する」という信用金庫の社会的役割(使命)を果たすため、銚子信用金庫は地域と共に歩んでいきます。

1 地域の最良のパートナーとして、常に地域と共に歩む。

当金庫の活動の起点は「地域」であり、地域・お客さまと当金庫とは、一種の運命共同体と言えます。当金庫がより緊密に地域・お客さまとの関係を創り上げ、絶対的な信頼関係を築いていくことにより共に悠久の発展を遂げることを願っております。

『最良のパートナー』とは、まさに地域(お客さま)との「絶対的な信頼関係の構築」を目指すものであり、『常に地域と共に歩む』とは、「地域(お客さま)と共に悠久の発展をする」という決意表明であります。



2 柔軟で創造性の高い組織力を発揮し、地域金融機関としての使命を全うする。

いかなる状況下においても、あらゆる局面に対し組織としての確かつ迅速に対応していくためには、当金庫自体が高い柔軟性を備えていることが前提となります。また、信用金庫の独自性を発揮するためには、これまで以上に業務の遂行や課題解決など、組織活動の全般にわたって、当金庫の創造性を高めていくことが必要となります。今後、当金庫は、役職員の経験・知識を集積、共有しつつ、新たな「組織としての知識」を創出し、当金庫自体の創造性を高め「地域金融機関としての使命を全う」してまいります。



3 秀れた人材を育成し、豊かで活力あふれる未来を創造する。

はじめに「秀れた人材」ありき、というより、むしろ人(役職員)は、その育成の仕方・処遇などにより、誰もが「秀れた」存在になり得る可能性を常に秘めているはずです。

人材の育成については、高い先見性と明確な目的をもって、組織を挙げて取り組んでまいります。

『豊かで活力あふれる未来』とは、「地域・お客さまの…」 「当金庫の…」 「職員の…」という言葉の全てを内包させております。



ビジョン

- 地域のニーズに応え、最良のサービスを迅速に提供する。
- 地域社会の豊かな発展を実現するトータルアドバイザーとして信頼度NO.1を目指す。
- 揺るぎない経営基盤を確立し、信用金庫としての社会的使命を遂行する。
- 環境の変化に応じて自己革新できる柔軟な組織を目指す。
- 将来を見据えた人事政策、能力主義人事の徹底により秀れた職員を育成する。
- 自由闊達で創造力と活力にあふれた働きがいのある信用金庫を目指す。

基本的な考え方は経営理念の順に各二項ずつがこれに対応しています。現状を踏まえ、近い将来に当金庫が目指すべき姿をより具体的にイメージしております。

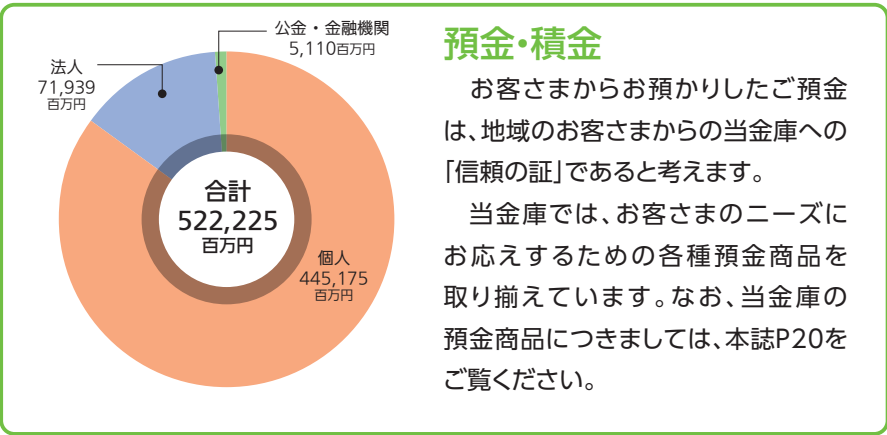
行動指針

- 私たちは地域社会の一員として誇りをもって行動します。
- 私たちは積極かつ迅速に行動します。
- 私たちは何事にも信念をもって行動します。
- 私たちは明るい笑顔、感謝の心をもって行動します。
- 私たちはより高い目標に向かって行動します。

行動指針は経営理念・ビジョンを踏まえ、当金庫の役職員がどのように行動すべきかをシンプルかつ明快に表現したものであり、地域・お客さまへ向けての宣言としております。

当金庫の地域経済活性化への取り組み

当金庫は、千葉、茨城両県にまたがる地域(31市5郡)を事業区域として、中小企業や地域のみなさまが会員となって、互いに助け合い、共に発展していくことを基本理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。地域のお客さまからお預かりした大切なご預金(預金積金)をお守りするのはもちろんのこと、地域で資金を必要とするお客さまにご融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として中小企業や地域のみなさまとの強い絆によるネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めています。また、単に金融機能の提供にとどまらず、文化、環境、教育といった幅広い分野での活動・支援も業務の一環として、地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。



新三か年計画「Shinking 2030 セカンド」

方針

2024年4月にスタートさせた新三か年計画「Shinking2030セカンド」では、前三か年計画「Shinking2030」を踏襲し、新たに見直した3つの具体的な重点事項を掲げて、トライアル&ランを繰り返しながら、目指す姿に近づいていくこととしています。

“ちょうしんきんならでは”の活動をとことん追求し、お客さま・地域の課題解決に貢献しながら、地域との持続的な発展を目指してまいります。

目指す姿

課題解決サポート体制を“ちょうしんきんならでは”の課題解決プラットフォームへと進化させ、最も身近な「ファーストアドバイザー」として、お客さま・地域の課題解決に貢献し、圧倒的な信頼を獲得する。

どのような状況にあっても前向きにトライアル&ランを繰り返し、智慧を集め共有しながら、絶えず柔軟に変化し続ける創造性の高い組織になる。

「人財を育む力」を“ちょうしんきんの強み”にまで高め、職員一人ひとりが自ら学び、成長し、お互いに助け合いながら、地域のみなさまと共に、豊かで活力あふれる地域社会を創る。

重点事項

お客さまとの接点を増やす

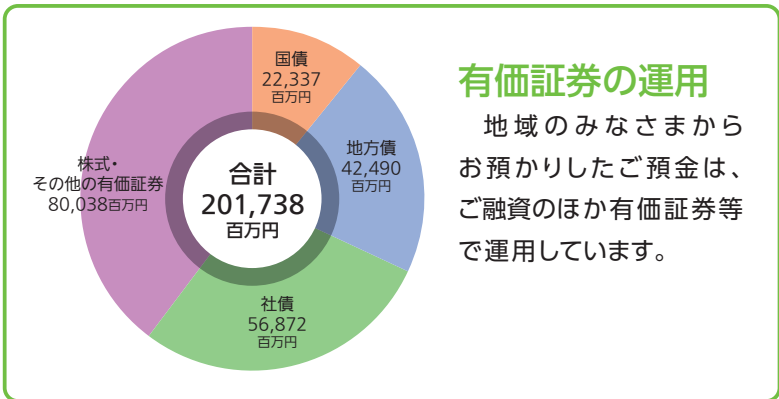
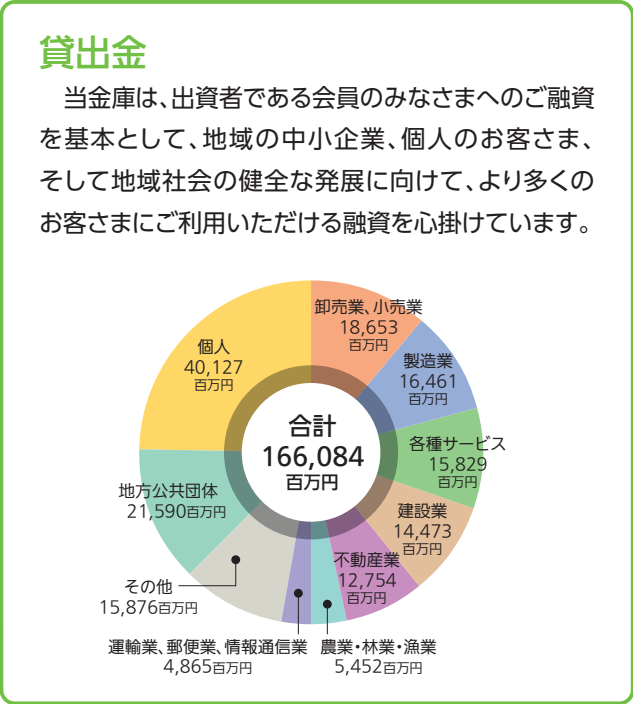
課題解決サポートに注力するため
金庫全体で業務の最適化を行いお客さまとの接点を増やします

お客さまにより良い提案を行えるようにする

職員の専門性を高め
多様化するお客さまのニーズにきめ細かく対応できるようにします

全職員が幸せにいきいきと働けるようにする

職員の成長と幸せの実現のため
やりがいを持って気持ちよく働ける風通しの良い組織にします



各計数は2024年3月末時点のものです。